

なった。「ええいままよ」と更につめ上げ、14:30二俣に分かれ、小さなルンゼ状となったのを確かめて引き返すことにする。 (記)

[タイム] 増沢バス停(12:40)→入谷(13:25)→遊行終了(14:30)→増沢バス停(16:00)

ヤゲシ沢

1983年9月13日
L記

天気晴れ。鱒沢合流点そばに車を置いて、摺上川本流右岸の岩場をへつってヤゲシ沢出合まで下降する。14:25出合着。

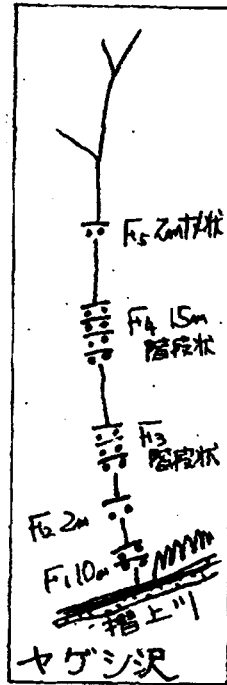
出会いすぐにはF1 10mが立ちはだかっている。水量はそれほど多くもなく、直登するが、苔はついているし、岩の突き出ている所はあるしで、足場は悪く、ザイルで確保してもらう。

次にF2、F3と傾斜をもった階段状の滝が続く。対岸の道路からはこのあたりの滝がきれいに見えるとの事である。

30分も歩くと、急に沢は狭くなって、藪がかぶさってきた。今日の遊行はこれで終わりとして、15分程藪をこいで、左岸の植林地の踏跡に出て下山する。

短い遊行であったが、初めの取り付きがおもしろい沢であった。 (記・フ)

[タイム] 出合(14:25)→遊行終了(15:00)

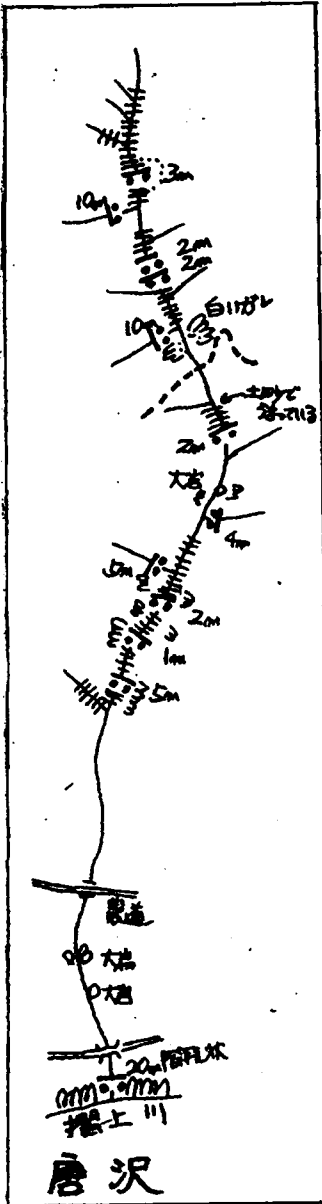


磨沢

1983年5月30日

仕事で、山菜とりで、あるいは沢登りでと、摺上川の流れに沿う国道398号線にはしょっちゅう車を走らせるのだが、この磨沢に水が流れているのを見たことはほとんどない。大雨のあとででもないかぎりいつも溜沢なのである。

12時20分入谷。石のゴロゴロした溜沢の中を進む。15分程で農道を横切って更に上流へ。1時間近く歩いた所で、前方から水音が聞こえてきた。ナメが出てくる。



水はその岩床の上をサラサラと流れている。水量は多くないが、サンショウウオなどのいるところをみると、絶えることのない流れのようである。下流では地下にしみこんで伏流となっているが、ここから先は岩盤が露出しているの、水も表面を流れるようになるのだろう。岸にはギボウシなどの水気のある所を好む植物の姿も見られる。

ナメはずっと続いている。途中にある小滝はフリクションをきかせてすべて直登。みな小さいので、特に問題となるような滝もない。所々崩壊した土砂が沢をうずめた所があり、そこだけはブッシュが通行の妨げとなっていた。14時、もう細い溝状となった沢をあとに樹林帯をつきって上の牧草地をめざす。

沢の途中、白いガレのあるあたりでヒメサユリの花をみかけた。うすいピンクのひっそりとした花は、こうした訪れる人としてない静

かな水辺にこそふさわしい。(

[タイム] 唐沢出合(12:20)→終了(14:00)

